

StarTeam 14.3

リリースノート

**Borland Software Corporation
700 King Farm Blvd, Suite 400
Rockville, MD 20850**

Copyright © Micro Focus 2014. All rights reserved. StarTeam は Borland Software Corporation に由来する成果物を含んでいます, Copyright © 2014 Borland Software Corporation (a Micro Focus company).

MICRO FOCUS, Micro Focus ロゴ、及びその他は Micro Focus IP Development Limited またはその米国、英国、その他の国に存在する子会社・関連会社の商標または登録商標です。

その他、記載の各名称は、各所有社の知的所有財産です。

2014-09-17

目次

StarTeam リリース ノート	5
新機能	6
14.3	6
すべてのコンポーネント	6
StarTeam Command Line Tools	6
StarTeam Cross-Platform Client	7
StarTeam Server	7
StarTeam Web Client	7
TeamInspector	8
14.2	8
StarTeam Web Client	8
14.0 Update 1	8
StarTeam Command Line Tools	8
StarTeam Cross-Platform Client	9
StarTeam Datamart	10
StarTeam Layout Designer	10
StarFlow Extensions	10
StarTeam Notification Agent	11
StarTeam Server	11
StarTeam Workflow Designer	11
Borland Connect	12
システム要件	13
StarTeam Cross-Platform Client のシステム要件	13
StarTeam Datamart のシステム要件	13
StarTeam Eclipse Client のシステム要件	14
StarTeamLayout Designer のシステム要件	15
StarTeamMPX のシステム要件	16
StarTeam Quality Center Synchronizer のシステム要件	17
StarTeam Server のシステム要件	17
オペレーティング システム	18
データベース	18
Web ブラウザ	19
サードパーティ製ソフトウェア	19
StarTeam Server と Microsoft SQL Server Express を同じコンピュータで実行する	20
StarTeam Server とデータベースを異なるコンピュータで実行する	20
データベース サーバー システムの要件	20
大容量メモリのサポート	21
Unicode 文字セット	21
Linux のシステム要件	21
StarTeam Visual Studio Integration のシステム要件	21
StarTeam Web Client のシステム要件	22
StarTeam Web Server のシステム要件	22
StarTeam Workflow Extensions のシステム要件	22
TeamInspector のシステム要件	22
既知の問題	25
ドキュメントの既知の問題	25

StarTeam コマンド ラインの既知の問題	25
StarTeam Cross-Platform Client の既知の問題	26
StarTeam Datamart の既知の問題	26
StarTeam Eclipse Client の既知の問題	27
StarTeamMPX の既知の問題	28
StarTeam SDK の既知の問題	29
StarTeam Server の既知の問題	29
StarTeam Quality Center Synchronizer の既知の問題	31
StarTeam Visual Studio Integration の既知の問題と制限	32
StarTeam Web Client の既知の問題	33
StarTeam Web Server の既知の問題	34
TeamInspector の既知の問題	35
Micro Focus へのお問い合わせ	37
Micro Focus SupportLine が必要とする情報	37
Micro Focus SupportLine が必要とする追加情報	37
デバッグ ファイルの作成	37
ライセンス情報	38

StarTeam リリースノート

これらのリリースノートでは、ヘルプには表示されない場合もある情報について説明します。製品をインストールする前に、これらのリリースノート全体をお読みください。



注: このドキュメントには、外部の Web サイトへのリンクが多く記載されています。Micro Focus は、これらの Web サイトのコンテンツまたはそのサイトがリンクするいかなるサイトのコンテンツについて、責任を負うものではありません。当社では、リンクを常に最新状態に維持することを試みしていますが、Web サイトはその性質上、急に変更されることがあります。このため、当社は、Web サイトの予期したとおりの動作を常に保証するものではありません。

新機能

このセクションでは、製品の新しい機能についての情報を提供します。

14.3


以下では、バージョン 14.3 における新しい機能について説明します。


すべてのコンポーネント

検索

StarTeam は、すべてのサーバー全体にわたる成果物に対してフルテキスト検索できるようになりました。検索コンポーネントは、StarTeam Server の一部として C:\Program Files\Borland\StarTeam Server <バージョン #>\apache-tomcat-7.0.47\webapps\search.war にインストールされます。

検索コンポーネントを StarTeam Server で構成すると、多くの StarTeam クライアントで検索を使用できます。

 **注:** 検索は、英語ロケールに対してのみ機能します。他のロケールに対するサポートは、将来のリリースで対応する予定です。

 **注:** 検索は、次のクライアントで利用できます。

- StarTeam Web Client.
- StarTeam Cross-Platform Client (Microsoft Windows 上)。

StarTeam Command Line Tools

以下では、StarTeam Command Line Tools の本リリースにおける新しいコマンドについて説明します。

move コマンド

move コマンドは、StarTeam アイテムを移動するために使用します。このコマンドを使用して、すべてのアイテムタイプを移動できます：フォルダ、ファイル、変更要求、タスク、トピック、要件、スプリント、ストーリー、概念、ホワイトボード、およびカスタム コンポーネント。

trace コマンド

クライアント コマンドライン ツールに trace コマンドが追加されました。トレースは、任意の 2 つの StarTeam アイテム間のリンクです。結合関係を表現します。trace コマンドは、-p パラメータで指定したプロジェクト/ビュー（または先行する connect/set コマンド）にトレースを作成、または検索や更新を行うために使用します。トレースは、その端点が存在することが保障される場合にのみ作成されます。

コマンドラインパラメータ

次のコマンドに新しいパラメータが追加されました。

apply-label コマンド -folder パラメータを apply-label コマンドに使用すると、指定したフォルダにラベルを適用できます。

select コマンド

workrecords

workrecords パラメータを select コマンドに使用すると、タスクを選択できます。

**links および
changes**

これらのパラメータを select コマンドに使用すると、すべてのアイテム タイプでレポートを作成できます。

StarTeam Cross-Platform Client

以下では、StarTeam Cross-Platform Client の本リリースにおける新しい機能について説明します。

Jenkins CI のプラグイン

Jenkins CI のプラグインが最新の API を使用するように更新され、いくつかのバグとパフォーマンスの問題が解決されました。ご利用の Jenkins インストールのプラグイン マネージャから新しいバージョン 1.0+ を探すか、Micro Focus サポート担当者にご連絡してください。詳細については、Jenkins-StarTeam wiki を参照してください : <https://wiki.jenkins-ci.org/display/JENKINS/StarTeam>。

キーワードの履歴とログ

StarTeam は、StarTeam Server および Cache Agent からのキーワードのログと履歴をサポートします。

電子メールの宛先

電子メールの宛先機能が、リストからユーザーを選択するだけでなく、ユーザー名を入力して受信者を指定できるようになりました。これによって、受信者の数が多い場合でも、StarTeam Cross-Platform Client にコピー&ペーストできます。

日時によるグループ化

年月日を使ってグループ化し時刻を無視するなど、日時プロパティによるグループ化がサポートされるようになりました。

プロジェクト固有のフィルタ

StarTeam Cross-Platform Client を使用して、プロジェクト固有のフィルタを作成し、使用する機能がサポートされました。

StarTeam Server

以下では、StarTeam Server の本リリースにおける新しい機能について説明します。

PostgreSQL データベースのサポート

Oracle および Microsoft SQL Server に加えて、StarTeam Server は PostgreSQL データベースをサポートするようになりました。詳細については、『StarTeam インストールガイド』を参照してください。

Oracle での Import/Export Manager のサポート

Import/Export Manager の本バージョンでは、Oracle データベースをサポートします。

StarTeam Web Client

以下では、StarTeam Web Client の本リリースにおける新しい機能について説明します。

StarTeam Cross-Platform Client でアイテムを開く

StarTeam Web Client から StarTeam Cross-Platform Client でアイテムを開くことができるようになりました。

TeamInspector

以下では、TeamInspector の本リリースにおける新しい機能について説明します。

64 ビット TeamInspector

TeamInspector が 64 ビット アプリケーションとしてコンパイルされ、利用可能になりました。

14.2

以下では、14.2 における新しい機能について説明します。

StarTeam Web Client

以下では、StarTeam Web Client の本リリースにおける新しい機能について説明します。

ファイルのチェックインとチェックアウト

StarTeam Web Client を使用して、StarTeam Server からファイルをチェックインしたり、StarTeam Server にファイルをチェックインできるようになりました。この機能は、処理アイテムやリンクの作成をサポートします。また、Delta II マージ機能もサポートします。

コンポーネント アクセスの構成

スプリント、ストーリー、および任意のカスタム コンポーネントを含むすべてのコンポーネントへのアクセスを構成できるようになりました。StarTeam Web Server の管理の詳細な情報については、『インストールガイド』を参照してください。

14.0 Update 1

以下では、14.0 Update 1 における新しい機能について説明します。

StarTeam Command Line Tools

以下では、StarTeam Command Line Tools の本リリースにおける新しいコマンドについて説明します。

list-labels

list-labels コマンドを使用して、選択したプロジェクトまたはビューのアクティブ ラベルをリストすることができます。

list-projects

list-projects コマンドを使用して、StarTeam Server でプロジェクトのすべてをリストすることができます。

list-views

list-views コマンドを使用すると、指定したプロジェクト上のすべてのアクセス可能なビューのセットをリストできます。

remove-project

remove-project コマンドを使用すると、StarTeam Server からプロジェクトを削除できます。

remove-view

remove-view コマンドを使用すると、StarTeam Server からビューを削除できます。

StarTeam Cross-Platform Client

以下では、StarTeam Cross-Platform Client の本リリースにおける新しい機能について説明します。

Microsoft Windows 8 のサポート

Microsoft Windows 8 がサポートされるようになりました。

カスタム レイアウト レンダリング

StarTeam Cross-Platform Client カスタム レイアウト レンダリングのサポートが **内容**、**複数選択列挙**、および **ブール値** プロパティに対して追加されました。

ラベル テーブルのナビゲーション

ビューラベル ダイアログ ボックスが、ラベル テーブルの先行入力によるナビゲーションをサポートするようになりました。

ファイルの履歴ペイン

デフォルトでは、**ファイルの履歴** ペインに **ファイル名** の列が表示されるようになりました。この列は、履歴ファイルのチェックアウトに影響する可能性のあるファイル名の変更が発生した場合に識別するのに有用です。

ファイル パフォーマンスの更新

ナビゲーションやファイル ステータスの計算を改善するために、さまざまなパフォーマンス強化がなされました。

変更パッケージのリンク

変更パッケージと他のアイテム間のリンクを手動で作成できるようになりました。ユーザーがすでにコミットした変更パッケージの処理アイテムを更新したい場合に特に有効です。

変更の無効化

コミットした変更パッケージに対する変更の無効化を選択できるようになりました。変更を無効化すると、変更パッケージが他のビューに再生される場合に変更したアイテムは無視されるようになります。

クロスビュー処理アイテムのナビゲーション

クロスビュー処理アイテムの使用時に、ビュー比較/マージを使用した処理アイテムの使用や、パッケージの変更を簡単にできるように StarTeam Cross-Platform Client が強化されました。

- **All Change Packages by Process Item** という新しいフィルタが変更パッケージ パースペクティブに追加されました。これにより、コミット中に使用された変更パッケージを処理アイテムでソートできます。レビューの実施に役立ち、ビュー比較/マージ セッションを限定するために、このフィルタは共通の処理アイテムに対する変更を見つけます。
- **ビュー > アクティブ処理アイテムの比較/マージ** 操作を使用して、ビュー比較/マージ セッションをアクティブ処理アイテムに限定します。それがビュー内かクロスビュー処理アイテムかどうかは関係ありません。

StarTeam Datamart

以下では、StarTeam Datamart の本リリースにおける新しい機能について説明します。

Microsoft SQL Server 2012 のサポート

Microsoft SQL Server 2012 がサポートされるようになりました。

Microsoft Windows Server 2012 のサポート

Microsoft Windows Server 2012 がサポートされるようになりました。

StarTeam Layout Designer

以下では、StarTeam Layout Designer の本リリースにおける新しい機能について説明します。

Microsoft Windows 8 のサポート

Microsoft Windows 8 がサポートされるようになりました。

新しい StarTeam Layout Designer プロパティ

StarTeam Layout Designer で、**内容**、**複数選択列挙**、および **ブール値** プロパティに対してコントロールを作成できるようになりました。

StarFlow Extensions

以下では、StarFlow Extensions の本リリースにおける新しい機能について説明します。

APE コントロールのリンク/トレース

LinksAndTracesComponent.java が **代替プロパティ エディタ** GUI コンポーネントに追加され、選択したアイテムから、および選択したアイテムへのすべての関連を表示できるようになりました。LinksAndTracesComponent は、StarTeam Cross-Platform Client **詳細** ペインの **リンク** タブで利用可能なものと同じ内容を持つテーブルを表示します。

LayoutDesignerAPE サンプル

LayoutDesignerAPE が StarFlow Extensions のサンプルとして追加されました。LayoutDesignerAPE は、StarTeam Cross-Platform Client の代替プロパティ エディタとしてカスタム レイアウト フォームのレンダリングをサポートするために使用し、カスタマイズすることができます。LayoutDesignerAPE は、

Layout Designer で設計したフォームを持つワークフローを有効化できることを期待している Enterprise Advantage のお客様にとって有用です。

StarTeam Notification Agent

以下では、StarTeam Notification Agent の本リリースにおける新しい機能について説明します。

Microsoft Windows 8 のサポート

Microsoft Windows 8 がサポートされるようになりました。

64 ビット アプリケーションの StarTeam Notification Agent

数多くのプロジェクトとビューをモニタリングする際のパフォーマンスを改善するために、StarTeam Notification Agent がネイティブ 64 ビット アプリケーションとして提供されるようになりました。

StarTeam Server

以下では、StarTeam Server の本リリースにおける新しい機能について説明します。

Import/Export Manager

Import/Export Manager によって、ある StarTeam Server から別の StarTeam Server にプロジェクトを選択して移動できるため、パフォーマンスとスケーラビリティを改善できます。複数のサーバーを持つことには多くの理由があります。この場合、アクティブなサーバーから古いプロジェクトをアーカイブしたり、単にさまざまなビジネス ユニットごとに分離することができます。プロジェクトを移動する能力を持つことによって、アクティブなサーバーを効率的な状態に保ち、最重要プロジェクトのみで満たすための、制限のない機会を与えます。

メンテナンス タスク スケジューラ

メンテナンス タスク スケジューラ を使用すると、ローカルのサーバー構成に対して実行するスクリプトをスケジュールすることができます。**メンテナンス タスク スケジューラ** によって、選択したスケジュールに従って、データベースのパフォーマンス改善を自動化することができます。クエリ最適化統計データの更新やオンラインでインデックスを再構築するスクリプトを実行できます。

デフォルトの StarTeamMPX および Borland Connect のインストール

デフォルトでは、StarTeam Server は、ルート Message Broker および Borland Connect をバンドルするようになりました。StarTeam Server のインストール時に、これらのツールも自動的にインストールされ、構成されます。

StarTeam Workflow Designer

以下では、StarTeam Workflow Designer の本リリースにおける新しい機能について説明します。

Microsoft Windows 8 のサポート

Microsoft Windows 8 がサポートされるようになりました。

新しい StarTeam Workflow Designer プロパティ

StarTeam Workflow Designer に、ワークフローによって **内容**、**複数選択列挙**、および **ブール値** プロパティを更新する機能が追加されました。

Borland Connect

以下では、Borland Connect の本リリースにおける新しい機能について説明します。

SCM API

サードパーティ SCM ツールからファイルやフォルダの同期のサポートが Borland Connect に追加されました。Subversion コネクタのインストール フォルダにサンプルがあり、カスタム SCM コネクタの作成をサポートするために、新しい API が追加されました。詳細については、Borland Connect のドキュメントおよびコミュニティ サイトを参照してください。

デフォルトの StarTeamMPX および Borland Connect のインストール

デフォルトでは、StarTeam Server は、ルート Message Broker および Borland Connect をバンドルするようになりました。StarTeam Server のインストール時に、これらのツールも自動的にインストールされ、構成されます。

システム要件

このセクションでは、StarTeam コンポーネントのシステム要件について説明します。

StarTeam Cross-Platform Client のシステム要件

StarTeam Cross-Platform Client は、Java で実装されており、Microsoft Windows システムおよび Java Runtime Environment (JRE) 1.7.0_17 をサポートする任意のシステム上にインストールできます。StarTeam Cross-Platform Client は、以下のハードウェアとソフトウェアのシステム上でテストされました。

ソフトウェア

オペレーティング システム (32 ビットおよび 64 ビット)

- Microsoft Windows 8。
- Microsoft Windows 7。
- Microsoft Windows XP Professional SP3。
- Microsoft Windows Vista SP1。
- Solaris Sparc 10。
- RedHat Enterprise Linux 6。

Adobe Acrobat

PDF マニュアルの表示用。

Web ブラウザー (オンライン ヘルプ用)

- Internet Explorer 8 以降 (Microsoft Windows のみ)。
- Firefox 4 以降。

ハードウェア

プロセッサ 32 ビットデュアルコア。

RAM 最低 2 GB。

ハードディスク領域 200 MB (アプリケーションのインストール用)。さらに、作業ファイル用に十分なディスク領域が必要です。実際のサイズは、製品の使用状況に依存します。

ディスプレイ

必須	SVGA、ハイカラー モード、1024x768。
推奨	1280x1024 以上。

StarTeam Datamart のシステム要件

以下では、StarTeam Datamart の本リリースをインストールして実行するためのシステム要件を示します。


オペレーティング システム

- Microsoft Windows Server 2012。
- Microsoft Windows Server 2008 R2 (32 ビットおよび 64 ビット)。
- Microsoft Windows Server 2008 (64 ビット)。

- Microsoft Windows Server 2003 R2 SP2 (32 ビット)。

データベース

- Oracle11g R2。
- Oracle 11g バージョン 11.1.0.6.0。
- Oracle 10g R2 バージョン 10.2.0.4.0。
- Microsoft SQL Server 2012。
- Microsoft SQL Server 2008 R2。
- Microsoft SQL Server 2008。
- Microsoft SQL Server 2005 SP3。

 **注:** データベースのシステム要件については、データベース ベンダーのガイドラインを参照してください。

JDBC ドライバ

StarTeam Datamart Extractor をホストするコンピュータ上の Microsoft または Oracle データベース用のネイティブ JDBC ドライバをダウンロードしてインストールする必要があります。 ネイティブ ドライバは、他の再頒布可能なドライバよりもパフォーマンスに優れ、2 バイト文字のサポートにも対応しています。これらのドライバは適切なベンダーの Web サイトから無料でダウンロードできます。

- Microsoft SQL Server JDBC ドライバは、本リリース時点では次の URL からダウンロードできます：<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/data/aa937724.aspx>。
- Oracle JDBC ドライバは、本リリースの時点では次の URL からダウンロードできません：http://www.oracle.com/technology/software/tech/java/sqlj_jdbc/index.html。

プロセッサ

- 600-MHz Pentium III クラス以上のプロセッサ。
- 600-MHz Sun SPARC/UltraSPARC。

RAM


- 最低 512 MB。
- 1 GB 以上推奨。

オプションのレポートソフトウェア

- Business Objects 6.5、XI、および XIR2 以降 (StarTeam Datamart Synchronizer 使用時に必要)。
- Crystal Reports 10 以降。

ハードディスク領域

100 MB の利用可能なディスク領域 (アプリケーションとインストール用)。

 **注:** StarTeam Datamart Extractor は、ハードウェアの影響を受けます。つまり、高い RPM のハードディスクを使用するとデータ書き込み速度は高速化されます。

StarTeam Eclipse Client のシステム要件

次に、StarTeam Eclipse Client の実行に必要なシステム要件を示します。



重要: StarTeam Eclipse Client の実行には、1.6 JRE を使用することを推奨します。最新の 1.6 JRE は、次の場所からダウンロードできます：<http://java.sun.com/products/archive/j2se/6u2/index.html>。Eclipse の起動に 1.6 JRE を使用するように指定するには、-vm コマンド ライン引数を eclipse.ini ファイルの最初に追加します (例: -vm C:¥jre1.6.0_29¥bin¥javaw.exe)。

Eclipse のバージョン 3.6、3.7、4.2。

Java のバージョン 1.6 以降。

オペレーティング システム

- Microsoft Windows 7 (32 ビットおよび 64 ビット)。
- Microsoft Windows XP Professional SP3 (32 ビットおよび 64 ビット)。
- Microsoft Windows Vista Business SP2 (32 ビットおよび 64 ビット)。
- Solaris 10 (32 ビット)。
- Red Hat Enterprise Linux 5.5 (32 ビット)。

StarTeam Server のバージョン 2009 以降。

製品の相互運用性

- StarTeam Eclipse Client の本リリースは、Eclipse 3.6、3.7、および 4.2 上で、Rational Application Developer 7.5、Together 2008 R2 SP1、および JBuilder 2008 R2 と共にテストされました。テストは限定されていますが、これらの製品のいずれかと共に StarTeam Eclipse Client の本バージョンを使用しても問題は見つかりません。
- StarTeam を Together と共に使用している場合、StarTeam Eclipse Client は Sun JRE 1.6 で動作しますが、最新の Together 2008 R3 (2010 年 11 月にリリースされた) は、JRE 1.5 または 1.6 のいずれかで動作することに注意してください。Together 2008 R2 SP1 を使用しており、インストーラを使ってインストールした場合、JRE 1.5 が Eclipse のルートにある jre ディレクトリにインストールされています。しかし、Together 2008 R2 SP1 は、JRE 1.6 でも動作します。Together がインストールした JRE を JRE 1.6 で置き換えるか、1.6 を使用して実行するように構成された Eclipse インスタンスに Together をアップデート サイト (オンラインまたはアーカイブ) からインストールできます。

ハード ディスク領域 Eclipse が必要な領域に加えて、アプリケーションのインストールに 37 MB のハード ディスク領域が必要です。



注: さらに、作業ファイル用に十分なディスク領域が必要です。実際のサイズは、製品の使用状況に依存します。



注: この製品を使用する際に、Java のメモリ割り当てヒープ領域を増やすことを強く推奨します。この設定は、Java コマンド (-vmargs) -Xms および Xmx で指定します。適切な設定値は、利用可能な物理メモリのサイズに依存します。より多くのメモリを利用可能にすることによって、パフォーマンスが劇的に改善されます。ただし、物理メモリが十分でない場合に大きなヒープを割り当てることによって、ページングが発生することは避けるべきです。メモリ ヒープ領域の設定の詳細については、Eclipse.org、IBM.com、Java.Sun.com を参照してください。

本製品の以前のバージョンがターゲット コンピュータにインストールされている場合、本バージョンをインストールする前に、アンインストールするか、無効化してください。

StarTeamLayout Designer のシステム要件

Layout Designer は、Java Runtime Environment (JRE) 1.6.0_13 をサポートする Microsoft Windows システム上にインストールできます。システム要件を以下にリストします。

ソフトウェア

オペレーティング システム (32 ビット)

- Microsoft Windows 8。
- Microsoft Windows XP Professional SP3。
- Microsoft Windows Vista SP1。

- Red Hat Enterprise Linux (WS) 5.1。

ハードウェア


プロセッサ	32 ビットデュアル コア。
RAM	最低 2 GB。
ハードディスク領域	200 MB (アプリケーションのインストール用)。さらに、作業ファイル用に十分なディスク領域が必要です。実際のサイズは、製品の使用状況に依存します。
ディスプレイ	必須 SVGA、ハイカラー モード、1024x768。 推奨 1280x1024 以上。

StarTeamMPX のシステム要件

 **重要:** インストールを実行する前に、<http://supportline.microfocus.com/productdoc.aspx> を開き、Micro Focus Web サイトの **Product Documentation** ページで、*StarTeamMPX* 管理者ガイドおよび *StarTeam* インストールガイドをお読みください。StarTeamMPX から最善の結果を得るためには、適切な計画が必要とされます。


StarTeam Server は、Message Broker と Cache Agent をインストールする前にインストールされている必要があります。StarTeamMPX トランスミッタは、システムの一部であるため、システム要件は StarTeam Server と同じです。StarTeamMPX Message Broker が必要です。StarTeamMPX Message Broker は、パブリッシュ/サブスクライブ メッセージ エンジンで、トピックに基づいてメッセージをブロードキャストします。別のコンピュータで実行できるスタンドアロン プロセスで、大規模環境におけるネットワーク処理のオーバーヘッドの負荷を低下させることができます。詳細については、本ドキュメントの「StarTeam Server のシステム要件」を参照してください。Cache Agent をさまざまな場所で何層にもセットアップすることもできます。これによって、ファイル トランスミッタによって送信されるファイルの内容やオブジェクトが、StarTeam ユーザーの近くのローカル ネットワークにおくことができます。Cache Agent は StarTeam Cross-Platform Client と共に機能し、ファイルのチェックアウトやオブジェクトのフェッチが高速化されます。

Message Broker と Cache Agent

 **注:** StarTeamMPX Cache Agent の場合、これらの要件は、50 から 100 人のメンバのチームに対して十分な構成です。

オペレーティング システム


- Microsoft Windows Server 2012 (64 ビット)。
- Microsoft Windows Server 2008 (32 ビットおよび 64 ビット)。
- Microsoft Windows Server 2008 R2 (64 ビット)。
- Red Hat Enterprise Linux 5.5 (32 ビット)。

 **注:** 64 ビット Microsoft Windows StarTeam コンポーネントを 32 ビット Microsoft Windows システム上にインストールできません。Java VM をインストールする際に、インストーラはエラーを返します。

プロセッサ/ハードウェア

- キャッシュのサイズに適切なディスク。高速なディスクが望ましいが、必須ではありません。
- 100 メガビット NIC 以上
- 1 CPU P4 1Ghz 以上

RAM 256 MB メモリ以上

 **注:** StarTeamMPX Cache Agent はメモリ キャッシュをサポートしており、オブジェクト キャッシュが有効な場合に重要です。よって、メモリ キャッシュに必要なメモリ量をサポートするためには、さらメモリが利用可能である必要があります。デフォルトのメモリ キャッシュ サイズは 100MB です。

ハードディスク領域 アプリケーションのインストールに 12 MB、さらに各 StarTeamMPX Cache Agent のキャッシュに必要なサイズに対して十分なディスク領域が必要です。

ディスプレイ SVGA、ハイカラー モード、1024x768 以上

推奨する解像度：1280x1024 以上

その他 Adobe Acrobat Reader (『StarTeamMPX 管理者ガイド の参照用)

推奨ハードウェア

ピーク ユーザー数に従った推奨されるシステム構成を以下に示します。

100 未満 32 ビット デュアル コア システム (4GB メモリ)

100-200 32 ビット クワッド コア システム (4 から 8 GB メモリ)

200 以上 64 ビット クワッド コア システム (8 から 16 GB メモリ)

Message Broker の場合、ピーク ユーザー数は、一般に StarTeam Server に接続されたピーク ユーザー数よりも少なくなります。これは複数の Message Broker が中規模から大規模なデプロイメントで使用されるためです。Cache Agent に接続されるピーク ユーザー数は、非常に少なくなります。これは Cache Agent が短期間に大量にのみ使用されるためです。結果として、Message Broker と Cache Agent をサポートするのに必要なハードウェア リソースは一般的に StarTeam Server と比較して少なくなります。さらに、与えられた地理的な場所に対して、Message Broker と Cache Agent は、同じマシン上にデプロイされることが一般的です。

StarTeam Quality Center Synchronizer のシステム要件

StarTeam Quality Center Synchronizer は、Microsoft Windows Server 2003 SP2 (32 ビットバージョン) でテストされました。Microsoft Windows プラットフォームでない限り、Quality Center の Synchronizer データベースと同じコンピュータに Synchronizer をインストールすることを推奨します。OTA API のため、Synchronizer は Microsoft Windows オペレーティング システム上で実行する必要があります。通常でないオペレーティング システムの要件はありません。

- StarTeam Server の Enterprise または Enterprise Advantage エディション for Microsoft Windows。
- Quality Center 9.0、9.2、10.0、および 11.0。
- Java Runtime Environment (JRE) バージョン 1.6.0_02 以降。

上記にリストしたソフトウェアは、Synchronizer と同じマシンにある必要は無く、必要に応じて別のマシン上で実行することができます。ただし、Synchronizer は、Synchronizer for Quality Center データベースおよび StarTeam Server へのネットワーク アクセスできる必要があります。

StarTeam Server のシステム要件

専用のアプリケーション サーバーに StarTeam Server をインストールし、データベースとして Microsoft SQL Server Express のサポートするバージョンを使用していない場合は、別のサーバーにデータベースをインストールすることを推奨します。



重要: ソフトウェアの現在のバージョンをインストールする前に、以前のバージョンをアンインストールする必要があります。また、次のフォルダも削除してください。

```
<Server Installation folder>%apache-tomcat-7.0.47%webapps%search
<Server Installation folder>%apache-tomcat-7.0.47%webapps%ConnectWeb
<Server Installation folder>%apache-tomcat-7.0.47%webapps%borland
```

StarTeam Server を実行しているコンピュータとデータベース管理システムとの間に専用の接続があるとよいでしょう。最適なパフォーマンスを得るために、両方のマシンは同じ物理スイッチを使用する必要があります。

以下に、サーバー アプリケーションとデータベースをデプロイするコンピュータの最小の推奨するハードウェアについて示します。特定のプロセッサのスピードをリストしますが、最大のパフォーマンスを得るためには、利用可能な最速の CPU を常に使用することが望まれます。



注: StarTeam Cross-Platform Client は、2009 以降の StarTeam Server バージョンのみをサポートします。



重要: StarTeam Server の前のバージョンからアップグレードしようとしている場合は、『StarTeam インストール ガイド』のアップグレードの手順を確認してください。正しくアップグレードを完了するために、行わなければならないいくつかの手順があります。これらの手順を実行しないと、アップグレードに失敗する可能性があります。

オペレーティング システム

- Microsoft Windows Server 2012 (64 ビット)。
- Microsoft Windows Server 2008 (32 ビットおよび 64 ビット)。
- Microsoft Windows Server 2008 R2 (64 ビット)。
- Red Hat Enterprise Linux 5.5 (32 ビット)。



注: 64 ビット Microsoft Windows StarTeam コンポーネントを 32 ビット Microsoft Windows システム上にインストールできません。Java VM をインストールする際に、インストーラはエラーを返します。

データベース

StarTeam Server は、32 ビットおよび 64 ビットのデータベースをサポートします。以下のデータベースは、テストされ、サポートされています:

- Microsoft SQL Server 2012 Express
- Microsoft SQL Server 2012 SP1
- Microsoft SQL Server 2008 Express R2
- Microsoft SQL Server 2008 Express
- Microsoft SQL Server 2008 R2 SP2
- Microsoft SQL Server 2008 SP3
- Oracle Database 11g R2
- Oracle Database 11g バージョン 11.1.0.6 (32 ビット)
- Oracle Database 10g R2 バージョン 10.2.0.4 (32 ビット)
- PostgreSQL 9.3.4 以降



注: Linux 上にホストされた StarTeam Server は、PostgreSQL をサポートしません。ただし、サポートされる Microsoft Windows プラットフォーム上にホストとされた StarTeam Server は、Linux 上にインストールした PostgreSQL データベースを使用できます。



注: Microsoft SSE を、StarTeam Server のインストールの一部としてインストールできます。データベース製品は、適切なベンダーからお買い求めください。StarTeam と SSE を同じコンピュータで

実行する場合や、StarTeam Server と関連するデータベースを別のコンピュータで実行する場合の推奨するシステム構成についての詳細な情報は、*StarTeam* インストール ガイド を参照してください。



重要: データベースの内容やデータ保管庫ファイルは、StarTeam クライアントまたは **サーバー管理** ツール から以外は変更しないでください。直接データベースを操作することは、サポートされていません。

パスワード

デフォルトでは、インストーラは次のユーザー名とパスワードを使用します。

ユーザー名	sa
パスワード	StarTeam123

Web ブラウザ

- Internet Explorer 8 以降。
- Firefox 4 以降。

サードパーティ製ソフトウェア

これらのその他のソフトウェア要件に合致していることを確認してください：

JRE

StarTeam Server は、Java Runtime Environment (JRE) 1.7.0_17 を使用し、C:\Program Files\Borland\Java\Oracle1.7.0_17 に自動的にインストールされます。

Adobe Acrobat

PDF 形式のドキュメントを参照するために必要です。

ウイルス スキャン ユーティリティ

すべての StarTeam Server コンピュータは、ウイルス保護ユーティリティとその最新のウイルス定義ファイルで保護されていることが望まれます。すべての StarTeam Server もまた、最新のウイルス保護で保護され、管理者にのみ通知するように設定されるべきです。StarTeam 管理者は、ウイルスが検出されたら StarTeam Server を直ちに停止し、フルバックアップを実行してから、ウイルス保護ベンダーから提示された手順に従って感染したファイルからウイルスを除去します。感染したファイルからウイルスを除去できない場合や、問題がある場合は、StarTeam Server を再起動する前に <http://supportline.microfocus.com> にお問い合わせください。ウイルスによっては、リポジトリをすぐに破壊してしまい、データの損失が避けられない場合もあります。このため、定期的にバックアップを実行することを強く推奨します。

ファイル システムに損害を与えるウイルスは、リポジトリにチェックインする際により破壊的になる可能性があります。たとえば、多くのウイルス保護ユーティリティでは、感染したファイルを削除するように設定できます (またはデフォルトで設定されている)。ウイルス保護ユーティリティによってアーカイブファイルが削除されると、データが失われる可能性があります。

別の例としては、ウイルスがアーカイブで検出されない場合があり、すべてのプロジェクト ユーザーのコンピュータに感染するのを待機して、休眠状態にある場合があります。ネットワーク上にウイルスが急速に拡散し、データ損失が発生する可能性があります。



注: アンチウイルス ソフトウェアのようなプロセスやプログラムが、StarTeam の管理対象のファイルを変更すると、システムが正しく動作しなくなる場合があります。これらのプロセスがシステムや


StarTeam の管理対象のデータ ファイルを変更することを許可しないようにすることを強く推奨します。

StarTeam Server と Microsoft SQL Server Express を同じコンピュータで実行する

Microsoft SQL Server Express を使用する場合、一般的にデータベースは、対応する StarTeam Server アプリケーションと同じコンピュータ上で実行します。StarTeam Server/Microsoft SQL Server Express を同時使用するコンピュータのハードウェア推奨はシート数 (登録ユーザー数) に基づき次のようになります。ただし、StarTeam プロジェクトのサイズや StarTeam Server 構成によって管理されるプロジェクトの数によって状況は変わる可能性があります。

以下に、Microsoft SQL Server Express と StarTeam Server を同じコンピュータ上で実行する場合の推奨するシステム構成要件を示します。

50 シート未満	32 ビット デュアル コア マシン (4 GB RAM)
50 から 100 シート	32 ビット クワッド コア マシン (4 から 8 GB RAM)

 **注:** 登録ユーザー数が 100 を超える場合の構成に対して Microsoft SQL Server Express を使用することは推奨しません。

StarTeam Server とデータベースを異なるコンピュータで実行する

StarTeam Server アプリケーションをデータベース サーバーと異なるコンピュータ上で実行する場合に適用される推奨ハードウェアを以下に示します。これらはピーク時ユーザー数 (ピーク期間中の最大同時ユーザー数) に基づきます。ただし、StarTeam プロジェクトのサイズやサーバー構成によって管理されるプロジェクトの数によって状況は変わる可能性があります。

ピーク時ユーザー数

100 未満	32 ビット デュアル コア システム (4GB メモリ)
100 から 200	32 ビット クワッド コア システム (4 から 8 GB メモリ)
200 以上	64 ビット クワッド コア システム (8 から 16 GB メモリ)

データベース サーバー システムの要件

以下の推奨事項は、データベース サーバーが StarTeam Server と同じコンピュータ上にない場合に適用されます。ピーク時ユーザー数は、ピーク使用期間中の同時ユーザーの最大数です。

ピーク時ユーザー数

100 未満	デュアル コア プロセッサおよび 4 GB RAM のコンピュータ
100-200	最小構成 クワッド プロセッサおよび 4 GB RAM のコンピュータ
	推奨 最小構成 + RAID システム
200 以上	最小構成 任意のハイパフォーマンス エンタープライズ サーバー (クワッド プロセッサおよび 4-8 GB RAM)

大容量メモリのサポート

32 ビット Microsoft Windows システムでは、StarTeam Server アプリケーションが 3 GB のメモリを利用することができるようにするために、4GB RAM チューニングを使用できます。この機能を有効にするには、/3GB スイッチを Boot.ini ファイルに追加する必要があります。このスイッチの設定に関する情報は、<http://msdn2.microsoft.com/en-us/library/aa366521.aspx> を参照してください。

32 ビット Microsoft Windows では、最大ページ ファイル サイズにも注意する必要があります。これは、複数のアプリケーションが同じコンピュータ上で実行されている場合のメモリ割り当てに影響を与えるためです。参照先: <http://support.microsoft.com/kb/237740>。

Page Table Entry (PTE) の制限についても、/3GB スイッチを使用する場合には注意する必要があります。 <http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;EN-US;311901> を参照してください。

Unicode 文字セット

StarTeam Server は、UTF-8 でエンコードされたすべての言語のデータをサポートしますが、キーワードの展開では、ASCII 文字 (0-127) だけを使用します。キーワード展開と EOL 変換は、UTF-8 や Cp1252 などを含む、「ASCII ベースの」すべてのエンコードに対して機能します。種々の UTF-16 エンコードに対して、StarTeam Server は現在 EOL 変換は実行しますが、キーワードを展開しません。

カスタム フィールドの内部名は ASCII でなければなりません、表示名は英語以外の文字セットを使用することができます。

Linux のシステム要件

- Red Hat Enterprise Linux 5.5 (32 ビット)。



注: Advanced Platform ストレージ、仮想化、High Availability 機能 (Red Hat Global File System & Cluster Suite) はサポートされません。

- JRE または JDK (バージョン 1.7.0_17 以降)。
- Oracle Client 11g R2。
- Oracle Client 11g バージョン 11.1.0.6 (32 ビット)。
- Oracle Client 10g R2 バージョン 10.2.0.4 (32 ビット)。



注: Oracle データベースは StarTeam Server と同じマシンで動作している必要はありません。

StarTeam Visual Studio Integration のシステム要件

StarTeam Visual Studio Integration は、Microsoft Visual Studio 2010 または 2012 がサポートされる任意のプラットフォーム上で実行できます。

統合は以下の環境でテストされました。

プラットフォーム

- Microsoft Windows 7。
- Microsoft Windows Vista Business SP1。
- Microsoft Windows XP SP3 (32 ビットバージョン)。

Microsoft Visual Studio

- Microsoft Visual Studio 2010 Professional および Standard Edition。

- Microsoft Visual Studio 2012 Professional および Standard Edition。

StarTeam Server 14.0 Update 1、14.0、13.0、12.5、12.0、2009 Release 2、2009。

 **注:** StarTeam Visual Studio Integration は、StarTeam 13.0 SDK を使用してコンパイルされました。

StarTeam Web Client のシステム要件

Web ブラウザ

- Internet Explorer 9 以降。
- Firefox 4 (Microsoft Windows および Linux 上)。
- Chrome。

StarTeam Web Server のシステム要件


オペレーティング システム

- Microsoft Windows Server 2012
- Microsoft Windows Server 2008 R2 SP1 (64 ビット)。

ハードウェア

プロセッサ	64 ビット クワッド コア。
RAM	最低 8 GB。
ハードディスク領域	200 MB (アプリケーションのインストール用)。

ソフトウェア Java と Tomcat はインストール パッケージでインストールされます。

 **注:** 64 ビット Microsoft Windows StarTeam コンポーネントを 32 ビット Microsoft Windows システム上にインストールできません。Java VM をインストールする際に、インストーラはエラーを返します。

StarTeam Workflow Extensions のシステム要件

Extensions と Workflow Designer これらは StarTeam Cross-Platform Client と同じシステム要件を持ちます。

Notification Agent StarTeam Server と同じシステム要件を持ちます。
StarTeam Notification Agent をインストールする前に、StarTeam Server をインストールすることを推奨します。

TeamInspector のシステム要件

TeamInspector は次の機能を通して、リリース レディネスおよびビルド品質管理システムを提供します。

- 柔軟な継続的インテグレーション (CI) オプションを持つビルドおよびテストの自動環境。
- ダッシュボードを介したビルド、テスト、コード分析結果の包括的なモニタリング。
- プロジェクトに関連する現在および傾向分析データを表すポートフォリオ ビュー。

- ビルド イベントを通知する電子メールと SMS メッセージ。
- 異種ビルド環境のサポート。
- 使用頻度の高いツールや SCM システムの組み込みサポート。
- オープンソース ツール、サードパーティ ツール、およびユーザー定義ツールをサポートするようにインスペクタをユーザーが定義できる OpenInspector™ フレームワーク。
- 分散ビルドおよび依存ビルドのサポート。

システム要件を以下に示します。

ハードウェア

プロセッサ

- デュアルプロセッサ 3 GHz。
- デュアル Intel Xeon 5000 クアッド コア (推奨)。

RAM

- 4 GB システム メモリ。
- 16 GB システム メモリ (推奨)。

ハード ディスク領域

- 100 GB の空き領域。
- 750 GB の空き領域 (大規模なエンタープライズ環境の場合に推奨)。

オペレーティング システム

- Microsoft Windows Server 2003。
- RedHat Linux 4.x。

Web ブラウザ

- Mozilla Firefox 3.x。
- Internet Explorer 7.x。

ビルド ツール

- Apache Ant 1.7.x (JAVA_HOME システム環境変数に JDK 1.5 以降を要設定)。
- NAnt 0.85。
- NAnt または Ant スクリプトにカプセル化できる任意のツール。
- コマンドライン ビルダー。

ソース管理システム

- StarTeam 2006、2008 (要 StarTeam SDK 10.0 以降)
- Subversion 1.5.x (要 SVNKit 1.2.3)
- Perforce 2008.1 (要コマンドライン クライアント P4)
- IBM Rational ClearCase 7.1 (要 ClearCase Remote Client)

標準インスペクタ (テスト/分析ツール) のサポートするバージョン

- JUnit 4.5
- NUnit 2.4.x
- Checkstyle 4.4
- Emma 2.0.5312
- Silk Central Test Manager 2008 以降

サポートする OpenInspector

- XML 形式で出力するコード分析ツール。
- XML 形式で出力する単体テスト ツール。
- XML 形式で出力するコード カバレッジ ツール。

既知の問題

以下のセクションでは、本リリースにおける既知の問題について説明します。

ドキュメントの既知の問題

StarTeam Server ヘルプ

Internet Explorer 10 を使用するとヘルプの内容が正しく表示されません。Internet Explorer 10 の **開発者ツール** (F12) 設定で、ブラウザの **互換モード** を Internet Explorer 9 に設定して回避できます。

Eclipse Infocenter

StarTeam アプリケーション (StarTeam Cross-Platform Client など) の最初のインスタンスを開いて、**ヘルプ トピック** メニューをクリックすると、Eclipse Infocenter が開き、アプリケーションの正しいヘルプの内容が表示されます。ただし、アプリケーションを閉じ、他の StarTeam アプリケーション (**サーバー管理ツール** など) を開いても、**ヘルプ** メニューをクリックすると、Eclipse Infocenter は、前のアプリケーション (この場合は StarTeam Cross-Platform Client) のヘルプを表示します。この回避策は、**ヘルプ** をクリックした最初のアプリケーション (この例では StarTeam Cross-Platform Client) のインストールディレクトリに移動し、¥borland-help サブフォルダーで shutdown.bat をダブルクリックします。これによって、前のアプリケーションのヘルプの内容がメモリから開放されるため、2 番目のアプリケーションを開いたときに正しいヘルプが表示されます。

StarTeam コマンド ラインの既知の問題

stcmd パスの仕様

stcmd パスの仕様は、Microsoft Windows ではなく、Java の慣習に従う必要があります。たとえば、次のような場合、IndexOutOfBounds 例外がスローされます：

```
stcmd co -rp "c:¥temp" -p "Administrator:Administrator@localhost:49201/StarDraw/StarDraw" *
```

次の例は、Java 仮想マシンをサポートするすべてのプラットフォーム (Microsoft Windows、Unix、および Mac) 上で正しく機能します：

```
stcmd co -rp "c:/temp" -p "Administrator:Administrator@localhost:49201/StarDraw/StarDraw" *
```

二重引用符で囲んだ空白を含んだ引数

二重引用符で囲んだ空白を含んだ引数を指定する場合、最初の二重引用符の前に空白を付ける必要があります。空白を持つ引数の構文の正しい例と誤りの例の両方を以下に示します。

誤りの例 : stcmd set project="StarFlow Extensions"

正しい例 : stcmd set project = "StarFlow Extensions"

誤りの例 : stcmd select name from File where query="Flagged Items"

正しい例 : stcmd select name from File where query = "Flagged Items"

StarTeam Cross-Platform Client の既知の問題

- StarTeam Cross-Platform Client は、英語、ドイツ語、フランス語、ポルトガル語、中国語、日本語、それぞれのプラットフォーム上で実行するようにローカライズされています。
しかし、上記 6 言語以外のプラットフォームで使用するユーザーや、ネイティブプラットフォーム以外のロケールで StarTeam Cross-Platform Client を実行したいユーザーは、システム プロパティ - Duser.language を StarTeamCP.stjava{32|64} ファイルのオプション エントリで指定することができます。
 - 日本語の場合、-Duser.language=ja を指定します。
 - 中国語の場合、-Duser.language=zh を指定します。
 - ポルトガル語の場合、-Duser.language=pt を指定します。
 - ドイツ語の場合、-Duser.language=de を指定します。
 - フランス語の場合、-Duser.language=fr を指定します。
 - 英語の場合、-Duser.language=en を指定します。
- StarTeam コンポーネントをインストールする前に、他のすべてのアプリケーションをシャットダウンすることを Micro Focus は推奨します。これは他のアプリケーションによってインストーラがハングする可能性があるためです。インストール時のこのような問題は、すべてのアプリケーションをシャットダウンすることによって解決できます。
- Microsoft Windows 7 プラットフォームでは、PDF 版のヘルプのみ利用可能です。**スタート** メニュー、またはクライアントのインストール フォルダにある pdf サブフォルダからヘルプにアクセスしてください。例: C:\Program Files\Borland\StarTeam Cross-Platform Client Client <バージョン> \PDF。
- Microsoft Windows XP SP3 では、ヘルプを開くために (**ヘルプ** > **ヘルプ トピック**)、Internet Explorer のセキュリティ設定をヘルプを表示できるように変更する必要があります。回避策として、次のステップに従います。
 1. Internet Explorer を開きます。
 2. ツール > インターネット オプション を選択します。
 3. 詳細設定 タブを選択します。
 4. セキュリティ オプションまで下にスクロールします。
 5. **マイ コンピューターのファイルでのアクティブ コンテンツの実行を許可する** オプションを選択します。
- ユーザー アカウント制御をオンにして StarTeam Cross-Platform Client を実行していると、ローカルファイルにアクセスできないという内容の警告を受ける場合があります。StarTeam Cross-Platform Client を初めて起動することと、ヘルプ起動時にログを初期化することが、セキュリティ問題を発生させる 2 つの例です。



注: セキュリティ 警告が表示されたとしても、StarTeam の通常の作業を妨げることはありません。

StarTeam Datamart の既知の問題

Microsoft SQL Server 2008 および 2008R2 を使用すると Datamart がハングする

Microsoft SQL Server 2008 および 2008R2 と使用した場合に StarTeam Datamart をハングさせる次の 1.6.0_29 JRE のバグが見つかりました。

http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do;jsessionid=b401c81e03da5fffffffa6f06031d6f25a2?bug_id=7103725。

このバグを修正した JRE ビルドのパッチが提供されるまでの回避策として、次の手順に従ってください。

1. 1.6.0_27 JRE を <http://www.oracle.com/technetwork/java/javasebusiness/downloads/java-archive-downloads-javase6-419409.html> からダウンロードして、C:¥Program Files¥Borland ¥Java フォルダにインストールします。
2. C:¥Program Files¥Borland¥Java にある Java.ini を次のように変更して、新しい JRE バージョンを含めます：

```
[Sun1.6.0_27]
folder=Sun1.6.0_27
vendor=Sun
version=1.6.0_27
exe=bin¥javaw.exe
dll=bin¥client¥jvm.dll
```

3. 新しくインストールした JRE を使用するように StarTeamDatamart.stjava を変更します：

```
[Java VM]
name=Sun1.6.0_27
```

Datamart のアンインストール

StarTeam Datamart は、インストールに InstallAnywhere を使用します。Microsoft Windows システムからこの製品をアンインストールする際に次のエラー メッセージのいずれかが表示される場合があります：

実行可能ファイルを起動できません。ご使用のシステムで適切な Java 仮想マシンが見つかりませんでした。

または

Java VM の読み込み中に Windows エラー 3 が発生しました。

JRE 1.7.0_17 を <http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/index.html> からダウンロードしてインストールする必要があります。StarTeam CD の Utility フォルダにもそのコピーがあります。

StarTeam Eclipse Client の既知の問題

- StarTeam Eclipse Client の **変更** ビューで、変更パッケージのプロパティを表示できませんが、StarTeam Cross-Platform Client の **変更** タブではこの情報を表示できます。
- StarTeam Eclipse Client を **Tasktop Dev** プラグイン for StarTeam と共に使用する場合、**チーム > StarTeam > 同期化** の設定をすべてオフにしてください。これは、**Tasktop Dev** プラグインが同期化機能を処理するためです。**チーム > StarTeam > 同期化** の設定は、デフォルトですべてオフに設定されるようになりました。
- StarTeam Eclipse Client は、チェックアウトとマージアクションの実行をサポートしません。このオプションを実行しようとする、内部エラーが発生したというメッセージが表示されます。
- Eclipse 4.2 で、組み込みアイテムエディタが開いている状態で Eclipse を閉じると、Eclipse を再起動したときに、エディタドキュメントウィンドウを開きなそうとしてエラーが発生します。ドキュメントウィンドウを閉じてから、StarTeam クラシックビューで再度開く必要があります。
- **リンク** ビューからリンクしたファイルをチェックアウトすると、リンクしたリビジョンがチェックアウトされずに、リンクしたファイルのチップ リビジョンがチェックアウトされます。
- 存在しないファイルをチェックアウトするには、アイテムビューペインを使用できません。**同期化** ビューを使用してください。
- **エラーログ** ウィンドウに次のような警告が表示される場合があります：NLS unused message:... in: com.borland。これらのメッセージは無視できます。
- **詳細** ビューは、HTML の内容を表示するために Firefox を使用します。「No more handles ...」というフレーズを含むエラーメッセージは、ブラウザが更新された場合に表示されることがあります。この

問題を解決する方法についての詳細は、<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg21271865> を参照してください。

- 最新のバージョンの StarTeam File Compare/Merge だけが、代替マージ/比較ツールとして機能します。バージョン 11.0.xxx は、ファイルの内容を正しく自動マージしません。11.0.xxx 以前のバージョンは機能しますが、最新のバージョンを使用することを推奨します。StarTeam File Compare/Merge インストール ファイルを Micro Focus 製品更新ダウンロード サイトからダウンロードできます。
- 代替プロパティ エディタは、組み込みエディタとして表示するために利用できません。組み込みエディタの設定に関わらずダイアログに表示されます。
- StarTeam Eclipse Client の実行中に左フォルダを変更した場合、チーム同期化エラーが発生します。
- 本リリースでは、StarTeam **クラシック** パースペクティブは Solaris 10 では開きません。
- Solaris では、**注釈ビュー** や **詳細ビュー** を開くことができません。よって、注釈ホバー ハイパーリンクは表示されません。
- Solaris は、埋め込み可能なブラウザをサポートしていません。よって、Solaris での注釈ポップアップは選択可能な処理リンクに含まれません。
- ユーザーのモニタのディスプレイ表示が Microsoft Windows クラシック テーマに設定されている場合、フィルタ コンボ ボックスが Eclipse UI で正しく表示されません (狭すぎる)。回避策は、Microsoft Windows XP テーマを使用することです。この設定を変更するには、Microsoft Windows **コントロール パネル** から **ディスプレイ** を選択します。テーマは、[デザイン] タブで設定します。これは Eclipse のバグです。詳細については、https://bugs.eclipse.org/bugs/show_bug.cgi?id=155159 を参照してください。
- StarTeam Eclipse Client と StarTeam Server の両方に対して StarTeamMPX を有効化し、StarTeam Eclipse Client に手動でログオンした場合、クライアントは StarTeamMPX を利用するかどうかを確認します。保存されたアカウント情報を使用して自動的にログオンが実行される場合、クライアントは StarTeamMPX の確認を表示しません。しかし、StarTeamMPX に対するシステム ジョブは開始されます。システム ジョブは、すべての StarTeamMPX イベントを処理します。これらのジョブは、Eclipse の **進行状況** ビューに最初は表示されません。**進行状況** ビューのドロップ ダウン ビュー メニューをクリックし、**設定** を選択します。**進行状況の設定** ダイアログ ボックスで、**スリープおよびシステム操作の表示** オプションをチェックすることで、表示することができます。
- コンテキスト メニューの **置換** をコマンドと一緒に使用して発信変更を持つファイルを上書きすることだけできます。発信変更のみを持つファイルに対しては、強制チェックインを実行する前に、まずファイルをローカルで変更する必要があります (競合状態にするため)。
- それに追加したファイルを持つフォルダの名前を変更した後にステータスを更新する際に、クライアントは、変更のセットをフォルダの着信削除、およびフォルダとその新しいファイルの着信追加として表示します。ローカル履歴は切り離されます。しかし、これはサーバー上のリモート履歴の継続性と一貫性に対して影響を与えません。
- ワークスペースのリソースを移動するために、ドラッグ & ドロップを使用できますが、ワークスペースを共有するために使用することはできません。これは Eclipse のバグです。詳細については、https://bugs.eclipse.org/bugs/show_bug.cgi?id=187972 を参照してください。

StarTeamMPX の既知の問題

- StarTeamMPX Cache Agent のインストール時に以下のいずれかのエラーが発生する場合があります。

エラー 1723

Microsoft Windows インストーラ パッケージに問題があります。このインストールを完了するのに必要な DLL が実行できませんでした。サポート担当者かパッケージ ベンダーに問い合わせてください。

警告 : Visual C++ ランタイム ライブラリのインストールに失敗しました。StarTeamMPX Cache

これは、古いバージョン (2.0) の Microsoft Windows インストーラを使用している場合に発生します。Microsoft Windows インストーラ 3.0 以降を使用することを推奨します。詳細については、<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx>

Agent を実行する前に、[FamilyId=32BC1BEE-A3F9-4C13-9C99-220B62A191EE&displaylang=ja](#) を参照していただき、`vcredist_x86.exe` を実行してください。

- Cache Agent がチェックアウトを実行した場合、チェックアウトしたデータが生成した `.cotrc` ファイルに含まれません。チェックアウト操作が StarTeam Server によって実行された場合は、データは `.cotrc` ファイルにだけ含まれます。

StarTeam SDK の既知の問題

PATH 変数 Microsoft Windows に製品をインストールすると、StarTeam SDK ランタイムも必要に応じてインストールされます。エラーが `PATH` システム変数を手動で編集しなければならず、`README` ファイルの参照を示している場合は、ターゲット コンピュータでの `PATH` 変数の長さが Microsoft Windows の最大値を超過しています。StarTeam SDK ランタイムへの新しいパスを含めるか、StarTeam インストーラをもう一度実行して、テキストを短くする必要があります。 `PATH` システム変数は、1024 文字を超えることはできません。1024 文字に StarTeam SDK ランタイム パスを含めなければなりません。デフォルトでは、これは `C:\Program Files\Borland\StarTeam SDK <バージョン>\bin` および `C:\Program Files\Borland\StarTeam SDK <バージョン>\lib` です。



注: Microsoft Windows パスからテキストを削除すると、予期しないアプリケーションの失敗を起こす可能性があります。 `PATH` システム変数から手動で削除する前に、パスが確実に使用されていないことを確かめることは非常に重要です。確実にない場合は、使用されていないアプリケーションのアンインストールを使用するか、何かを行う前にシステム管理者に相談してください。

StarTeam Server の既知の問題

ODBC/DSN 廃止プロセスと回避策

既存の 13.0 以前の構成に対してデータベース アップグレードの処理中に、構成ファイル中の ODBC DSN 情報は、直接データベースに接続するためのエントリで置き換えられます。このときに、データベース サーバーとインスタンス名を検出し、それに従って構成を更新できます。

デフォルト以外のポートで実行しているデータベースへの接続 (Microsoft SQL Server または Oracle) も、新しい構成の作成時に直接サポートされるようになりました。必要に応じて、ポートを選択するオプションがあります。ただし、Microsoft SQL Server 構成が StarTeam の以前のバージョンから 12.0 にアップグレードしたものである場合、常にデフォルトポートが想定されます。これは、ODBC を使用してデフォルト以外のポートの Microsoft SQL Server に接続するための回避策が、クエリ時にポート情報を戻さないためです。

既存の構成によって使用される Microsoft SQL Server ODBC DSN がデフォルト以外のポートを参照する既存の構成を 14.3 にアップグレードする場合、StarTeam Server 構成ファイルを編集して正しいポートを入力する必要がある場合があります。

インストールの問題

64 ビット OS 上での複数の SDK 複数の SDK を 64 ビット OS にインストールする場合 (1 つが 32 ビットで、もう 1 つが 64 ビット)、最初の SDK のショートカットは最後にインストールした SDK へのショートカットで上書きされます。これは、プログラム グループのショートカットを使用して「最後の」 SDK だけをアンインストールすることができることを意味します。

Linux Linux では、**未確定文字列を入力対象クライアントのウィンドウに表示** オプションを選択すると、**パスワード** フィールドに日本語を入力できなくなります (前のリリースであったように)。また、このリリースでは英語も入力できなくなります。フランス語とドイツ語は問題ありません。英語と日本語の両方で、**未確定文字列を入力対象クライアントのウィンドウに表示** オプションのチェックをはずすことを推奨します。

インストーラのキャンセル StarTeam ランタイムをインストールした後で、StarTeam Server のインストールをキャンセルし、その後 StarTeam Server を再びインストールしようとした場合、インストールの最後に完了するときに、今一他の再起動が必要である場合でも、再起動を確認するダイアログが表示されません。

サーバーの問題

Native-II データ保管庫 1 つの StarTeam Server 構成によってハイブとして使用されるディスク ボリュームは、他の StarTeam Server 構成を含む他のいかなるプロセスによっても使用されるべきではありません。

ハイブのしきい値の制限を 100% に設定すべきではありません。ドライブを完全に使い尽くすべきではありませんが、ハイブを 100% に設定して、ディスク空間が不足したときに、ハイブ ローテーションでこのハイブの順番になったときに、サーバーはこのハイブを検査します。この結果、次のエラーが発生します：デバイス上に空き領域がありません。回避策は、このハイブに対して **ハイブ マネージャ** の **新しいアーカイブを許可** チェック ボックスのチェックをはずすことです。

時間の問題

StarTeam Server は、タイムスタンプを UTC (協定世界時：Coordinated Universal Time、グリニッジ標準時、ズールー タイムとしても知られる) で格納し、コンピュータが指定するタイムゾーンにタイムスタンプを調整します。たとえば、ファイルがカリフォルニアで 5 PM に保存され、チェックインされた場合、タイムスタンプはカリフォルニアでは 5 PM になります。しかし、ニューヨークにあるコンピュータでは、タイムスタンプは 8 PM になるでしょう (ファイルがチェックインされたニューヨークでの時間)。ファイルが変更されたとき、タイムスタンプはオペレーティング システムの時間を反映します。このことは、あるタイムゾーンでユーザーによってファイルがチェックインされ、別のタイムゾーンでユーザーが変更すると、ファイルのタイムスタンプは、最後にチェックインしたリビジョンよりも早い時間として表示される可能性があることを意味します。これは、StarTeam では UTC 時間がファイル ステータスの計算に使用されるため、影響を受けません。

ユーザーが夏時間 (DST: Daylight Savings Time) を採用する地域にいる場合、ビューをロールバック (**ビュー構成の選択日時を指定した構成**) すると StarTeam ステータス バーに誤った時間が表示される場合があります。たとえば、現在 DST 中である場合に、DST 前の時点にビューをロールバックすると、ステータス バーの時間表示 (StarTeam ウィンドウの下部左隅) は、1 時間進むでしょう。DST 中でない場合に、DST 中の時点にビューをロールバックすると、ステータス バーの時間は 1 時間遅れるでしょう。

Microsoft プロジェクトのタスク StarTeam Server にインポートされた Microsoft プロジェクトのタスクは、開始時間前に発生した作業記録を持つべきではありません。そのような場合は、作業時間は残作業量から引かれません。

ディスクイメージソフトウェア Norton Ghost などのディスク イメージ ソフトウェアは、StarTeam と正しく機能しません。StarTeam は、各ワークステーションにインストールする必要があります。StarTeam は、ユニークな connectionmanager.ini ファイルを各ワークステーションに作成します。connectionmanager.ini は、あるワークステーションを他から識別するために使用されます。ディスク イメージ ソフトウェアを使用すると、この .ini ファイルがコピーされ、他のコンピュータにイメージがインストールされた時点で、同

じ .ini ファイルを持つ複数のワークステーションが存在することになります。これは、予期しないステータス問題を発生させることになります。

前にログオンしたユーザーを使用したログイン

サーバー管理ツールで作業し、前にログオンしたユーザーでログインすると、「このセッションにはユーザーがすでにログオンしています。」というエラーが表示されます。回避策は、サーバー管理ツールを一旦閉じて、開きなおしてからログインすることです。OK をクリックして、プログラムを終了します。

このような状況を避けるには、Microsoft Windows をシャットダウンする前に StarTeam Server アプリケーションを確実に停止するか、StarTeam Server をサービスとして実行することです。

StarTeam Quality Center Synchronizer の既知の問題

- 大規模な同期によってメモリ不足のエラーが発生します。このような場合、-Xmx256m (または、利用可能なリソースに応じて最大 -Xmx1024m) を run.bat または run-again.bat の次の行に追加することを推奨します。

```
%JAVA% -classpath "%_CLASSMATE% com.starbase.mtdsync.App BugSync.ini
```

は、次のようになります。

```
%JAVA% -Xmx256m -classpath "%_CLASSPATH% com.starbase.mtdsync.App BugSync.ini
```

- LookupList** フィールド値もリストの名前である場合、StarTeam Quality Center Synchronizer は対応する StarTeam 列挙フィールドに値を作成せず、代わりにエラーを生成します。回避策は、StarTeam Quality Center Synchronizer の実際のリストに値を手動で追加することです。
- 2005 R2 StarTeam Quality Center Synchronizer では、空の Quality Center フィールドを StarTeam 列挙にマップすることができ、空の値をもつ StarTeam 列挙が作成されました。この問題は、StarTeam 列挙の値に 0 または -1 が設定されることにより発生していました。これらの値は、StarTeam クライアントでは許されないため、この機能は削除されました。Quality Center の値が空で、StarTeam 列挙にマップされる場合、StarTeam の列挙のデフォルト値が使用されます。マッピングが Quality Center によって所有されていたとしても、StarTeam の値が空であれば、StarTeam 変更要求はデフォルト値で更新されます。2005 R2 StarTeam Quality Center Synchronizer で、vts_create_custom_fields ディレクティブが StarTeam の列挙フィールドを作成するために使用された場合、これらの新しく作成された列挙フィールドは、正しいデフォルト値のセットを持ちません。このようなプロパティが同期時に現れた場合、ユーザーが 2006 以降を使用し、デフォルト値をカスタマイズダイアログで設定すべきことを示す警告メッセージが生成されます。Quality Center フィールドが StarTeam 列挙にマップされ、その Quality Center フィールドがブランクが許されている場合、ユーザーが Quality Center フィールドを「Required」にするようにカスタマイズすべきことを示す警告が生成されます。
- Quality Center サーバーが StarTeam Quality Center Synchronizer と異なるタイムゾーンで実行されている場合、Quality Center は時間をローカル時間に変換しません。このため、時間はサーバーのタイムゾーンに変換されなければなりません。Quality Center は、Quality Center サーバーのタイムゾーンを指定するタイムゾーン ID コードに基づいて変換を実行するようになりました。

StarTeam Visual Studio Integration の既知の問題と制限

既知の問題

- Microsoft Visual Studio 統合がローカル IIS サーバーを使用する Web サイト プロジェクトでのソースコード操作をサポートしません。これは既知のバグです。組み込みクライアントを使用して、IIS サーバーのローカル ファイルへポイントする以外の回避策はありません。
- StarTeam SCC (または任意の SCC プロバイダ) から StarTeam Visual Studio Integration にソリューションに対するソースコード プロバイダを変更する場合、**ファイル > ソース管理 > ソース管理の変更** メニューを使用して SCC 統合とのバインドを解除する必要があります。その後、StarTeam Visual Studio Integration (**ツール > オプション > ソース管理**) をソース管理プロバイダとして設定します。SCC プロバイダにバインドしたソリューションがある場合にのみ、**ファイル > ソース管理 > ソース管理の変更** メニューをシステムは表示します。
- StarTeam Visual Studio Integration は、インストールに InstallAnywhere を使用します。この統合のアンインストール中に次のエラーが発生する場合があります。

"Can't launch executable. Could not find a suitable Java Virtual Machine on your system...."

JRE 1.6.0_02 以前の JRE を <http://java.sun.com/products/archive/index.html> からダウンロードしてインストールする必要があります。

- StarTeamMPX との接続が StarTeamMPX を有効化した StarTeam Server に置かれたソリューションまたはプロジェクトに対して失われた場合、統合を使用したコマンド **ソリューションの更新** または **更新** が機能しません。この問題の回避策として、つぎのいずれかを実行できます。
 - StarTeam Server からログオフしてログオンする。
 - StarTeam **アイテム** または StarTeam **フォルダ** ペインにある StarTeam **更新** コマンドまたは **更新** ボタンを使用して手動で更新を実行します。
- テキスト、イメージ、ハイパーリンクを、変更要求、タスク、トピック、要件のテキストベースのフィールドにコピーして貼り付けると、リッチ テキストのサポートがインプレースで有効になるように見えます。一旦、アイテムを StarTeam Server に保存すると、書式とイメージは削除されます。
- StarTeam Visual Studio Integration のバージョン 2005 からこの統合にプロジェクトをアップグレードすると、プロジェクトを移行して変更をチェックインする必要があります。ユーザーは、ディスク上に現在のプロジェクトとソリューション ファイルを持たなければなりません。これは、StarTeam 同期レコードを持ち、不明 なファイル ステータスを持たないようにするためです。その後、すべてのユーザーは、Microsoft Visual Studio 2010 または 2012 で使用するワークスペースにプロジェクトとソリューションをプルします。**StarTeam > Pull Solution** (または、**Pull Project**) コマンドを Microsoft Visual Studio 2010 または 2012 で使用して、Microsoft Visual Studio 2005 プロジェクトを Microsoft Visual Studio 2010 または 2012 プロジェクトに変換する際に、エラー メッセージ を得ます。次の例の手順を代わりに実行してください。例:
 1. StarTeam Cross-Platform Client (または Microsoft Windows クライアント) を開き、Microsoft Visual Studio 2005 プロジェクトを開きます。不明 ステータスを持つファイルが無いことを確認します。[不明] ステータスを持つファイルが存在する場合は、選択してから、メイン メニューの **ファイル > ステータスの更新** を選択します。ファイルがワークスペースに存在しない場合、作業ファイルなし ステータスが表示されます。この場合は、チェックアウトする必要があります。
 2. Microsoft Visual Studio 2005 .sln ファイルを Microsoft Visual Studio 2010 または 2012 で開きます。**変換** ウィザードが自動的に開き、Microsoft Visual Studio 2005 ソリューションとプロジェクト ファイルを変換して Microsoft Visual Studio 2010 または 2012 で使用できるようになります。

3. ウィザードでこの手順が完了すると、ソリューションとプロジェクト ファイルは、変更者: StarTeam としてマークされます。**StarTeam > 保留中のチェックイン** ウィンドウを選択し、ファイルをチェックインします。
 4. 他のユーザーに **Pull Project** Microsoft Visual Studio を開くようにアドバイスし、**StarTeam > Pull Solution** (または) を選択して、Microsoft Visual Studio で使用する自身のワークスペースそれぞれにファイルを持ち込みます。
- ローカルで変更したファイルを開いており、他のユーザーが同じファイルの名前を変更して、その変更をチェックインした後で (ソリューション ファイルを含む)、ソリューションを更新した場合、ローカルワークスペースのファイルと名前を変更したファイルを手動でマージして、すべての変更が保持されていることを確認する必要があります。さらに、ソリューション エクスプローラで元の名前のファイルが見つからない場合 (その変更を行ったもとのファイルがローカルワークスペースにはまだ存在する)、**デザイナ** でファイルを開くと、エラー メッセージが表示される場合があります。
 - Visual SourceSafe とは異なり、多くの StarTeam ファイル コマンドがアクセスする前に、統合が変更を認識するようにファイルを保存する必要があります。ただし、StarTeam **Place Solution**、**Place Project**、**Update Solution**、**Update Project**、**Commit Project** コマンドを使用すると、自動的に変更が保存されます。
 - チェックアウト時にファイルを排他的または非排他的ロックするようにオプションを設定した場合 (StarTeam **個人用オプション** ダイアログの **ファイル** タブにあります)、チェックアウトして変更しない、または変更した後でその変更を戻した場合、そのファイルは StarTeam 保留中のチェックイン ダイアログには表示されません。この場合、名前を変更されたファイルは、手動でロックを解除するまでロックされ続けます。この動作は、チェックイン ダイアログがロックしたファイルを表示し、チェックイン操作が未変更のファイルのロックを解除する Visual SourceSafe とは異なります。
 - プロジェクトをプルしてもそれが無視できる場合、**プロジェクトの読み込みエラー** ダイアログ ボックスが表示される場合があります。ソリューションをとにかく開きます。

制限事項

- 組み込みクライアントで、次の新しいカスタム フィールド タイプが利用できません: Boolean、Content、Date、Map、Group、Group List、Time span、User、User List、および Multiple Enumerated。
- StarTeam Visual Studio Integration 組み込みクライアントの **変更** タブで、変更パッケージまたはその変更のいずれかのプロパティを表示できませんが、StarTeam Cross-Platform Client の **変更** タブではこの情報を表示できます。
- StarTeam Cross-Platform Client はオプションのソフトウェアなので、インストールされていない場合は、**StarTeam** メニューから **Launch Client** メニュー項目を使用できません。メニュー項目が選択されても、StarTeam Cross-Platform Client がインストールされていないと、StarTeam はエラー メッセージを生成します。
- StarTeam Visual Studio Integration の作業フォルダを変更すると、StarTeam Cross-Platform Client の代替作業フォルダが変更されません。
- Microsoft Windows Vista と Microsoft Windows 7 上で、StarTeam File Compare/Merge コンポーネントのデフォルトのインストール フォルダは C:\Users\Public\Borland\File Compare Merge になります。インストール中に場所を変更する場合、すべてのユーザーが書き込むことができるフォルダを選択しなければなりません。

StarTeam Web Client の既知の問題

- Web Client からファイルをチェックインする場合に既知の問題があります。ファイルを最初にチェックインすると、**チェックイン時のファイル タイム スタンプ** フィールドが記録されずに、"N/A" として表示されます。続いてチェックインを行うと、タイム スタンプは正しく更新されます。
- 作業フォルダ (ビューのルート フォルダ) として ASCII 以外の文字列を使用する場合に既知の問題があります。ASCII 以外の文字を使うと、ディスク上のフォルダの名前が正しい名前をチェックアウトさ

れません。よって、作業フォルダ名を設定するときに、フォルダ名として ASCII 文字のみを使用してください。

- StarTeam Web Client にアクセスして、期待する言語で UI が表示されない場合、リクエストパラメータに locale を追加して言語を指定できます。例: `http://<server_name_and_port>/BorlandStarTeam/?locale=ja`

これによって、日本語で UI が表示されます。リクエストパラメータを `locale=fr` に変更すると、フランス語で UI が表示されます。

- 非ラテン文字をファイルやフォルダ名に使用している場合、Tomcat の設定を次のように変更する必要があります。

1. <Web Server をインストールした場所>/apache-tomcat-7.0.47/conf/server.xml ファイルを開きます。
2. Connector 要素を探します。
3. `URIEncoding="UTF-8"` を Connector 要素に追加します。

```
<Connector port="8080" protocol="HTTP/1.1" connectionTimeout="20000"
redirectPort="8443" URIEncoding="UTF-8" />
```

4. server.xml ファイルを保存します。
 5. Tomcat が実行中であれば再起動します。
- Internet Explorer 9 でホスト名だけの Web アドレス (`http://starteam` など) を使用して StarTeam Web Client にアクセスした場合、「Your browser does not support CORS (ご使用中のブラウザは CORS をサポートしていません)」というエラーメッセージが表示される場合があります。Internet Explorer 9 は、互換モードを使用して、以前のイントラネットサイトを正しく表示するのに役立ちますが、残念ながらこの動作は StarTeam Web Client が正しく機能する妨げとなります。次の 2 つの回避策があります。
 - 完全な Web アドレス (`http://starteam.mycompany.com` など) を使用してアプリケーションにアクセスする。
 - 互換モードでイントラネットサイトを表示しないように Internet Explorer 9 を設定する (手順は、<http://blogs.msdn.com/b/ie/archive/2009/06/17/compatibility-view-and-smart-defaults.aspx> を参照してください)。
 - タスクバーから Borland File Service をシャットダウンすると、現在実行中のファイル操作はキャンセルされません。Borland File Service は操作が完了した時点で停止します。他の方法として、Borland File Service を Microsoft Windows **タスク マネージャ** を使用して直ちにシャットダウンすることもできます。
 - タイプのアイテム プロパティ。内容、マップ、複数選択列挙、ブール値、および日付を StarTeam Web Client 13.0 で編集できません。
 - アイテムの特定のタイプに対する **アイテムのプロパティ** を表示する最初の試みで、複数のアイテムが選択されている場合、エディタファイルを見つけることができませんでした、という警告を StarTeam Web Client は表示します。この警告を閉じた後に、エディタが正しく表示され、その後のこのタイプのエディタを開く試みに対して、警告は表示されません。最初に編集するときに単一のアイテムだけが選択されている場合には、この問題は発生しません。

StarTeam Web Server の既知の問題

- 1000 プロジェクト以上を追加する複数の結合した StarTeam リポジトリに対して StarTeam Web Server を管理する場合、Mozilla Firefox 10.0.2 以降を使用する必要があります。他のすべてのブラウザは、**Web サーバー管理** ユーザー インターフェイスを読み込もうとする際に、失敗するかハングします。
- 100 ビューを超えるプロジェクトにログインする最初のユーザーは、ビューの数に依存して数分にわたる読み込み遅延を経験する場合があります。これは、プロジェクトに対して 1 度だけかかるコストです。StarTeam Web Server を再起動しない限り、他のユーザーがこの遅延を経験することはありません。

- Microsoft Windows Server 2008 で、StarTeam Web Server のインストール時に StarTeam のインストール場所から StarTeam Web Server のインストール場所に必要なライブラリをコピーするのに失敗することがあります。これが発生した場合には、SDK から StarTeam Web Server に手動でファイルをコピーする必要があります。次のファイルを YOUR_PATH¥StarTeam <バージョン> Web Server¥apache-tomcat-5.5.33¥shared¥lib にコピーしてください：

```
YOUR_PATH¥StarTeam SDK <version>¥lib¥ss.jar
YOUR_PATH¥StarTeam SDK <version>¥lib¥starteam130.jar
YOUR_PATH¥StarTeam SDK <version>¥lib¥starteam130-resources.jar
YOUR_PATH¥StarTeam SDK <version>¥lib¥StarTeam.Encryption.dll
YOUR_PATH¥StarTeam SDK <version>¥lib¥StarTeam.Environment.dll
YOUR_PATH¥StarTeam SDK <version>¥lib¥StarTeam.FileAccess.dll
YOUR_PATH¥StarTeam SDK <version>¥lib¥StarTeam.Profile.dll
```

- StarTeam Web Server をサービスとしてインストールした場合に、停止に失敗する場合があります。これは、StarTeam Web Server が 1000 プロジェクトを超えてサポートするように構成された場合に発生します。プロセスが終了し、Microsoft Windows は失敗した旨を示すエラー メッセージを表示します。
- デフォルトのメモリ設定では、1000 プロジェクトを超えるような非常に大規模なデータセットに対しては不十分です。StarTeam Web Server を開始する前に変更する必要があるファイルが 2 つあります (実行するアクションに依存します)。

サービスとして実行する どちらかのファイルを編集します：YOUR_PATH¥StarTeam <バージョン> Web Server ¥StarTeamService32.bat または YOUR_PATH¥StarTeam <バージョン> Web Server ¥StarTeamService64.bat (オペレーティング システムによります)。
JVM_MAX_MEMORY の値を適切な値 (メガバイト単位) に変更します。32 ビット オペレーティング システムの場合、およそ 1.8 GB が一般的な最大の制限値です。JAVA_HOME と PRODUCT_JVM 変数が正しいことを確認してください。これらは典型的なパスの場所に従って設定されます。

スタートメニューから実行する 次のファイルを編集します：YOUR_PATH¥StarTeam <バージョン> Web Server ¥apache-tomcat-5.5.33¥bin¥setenv.bat。-Xmx4096M の値を適切な値 (メガバイト単位) に変更します。32 ビット オペレーティング システムの場合、およそ 1.8 GB が一般的な最大の制限値です。JRE_HOME 変数が正しいことを確認してください。これは典型的なパスの場所に従って設定されます。

- 値が 削除されたユーザー であるプロパティは、StarTeam Web Client で「削除されたユーザー」として表示されます。

TeamInspector の既知の問題

インストールと構成

- TeamInspector のインストール ファイルをサーバーにコピーしている最中にインストールをキャンセルすると、TeamInspector のすべてのファイルをクリーンアップするのに失敗します。TeamInspector ディレクトリ、Uninstall_TeamInspector ディレクトリ以外にも、install.log やその他のファイルが残ります。この問題が発生した場合、TeamInspector を再度インストールする前に、残されたディレクトリとファイルを手動で削除してください。
- インストール中に、**Database Connection** パネルで **キャンセル** ボタンをクリックすると、インストールは終了しますが、TeamInspector インストール ディレクトリのクリーンアップに失敗します。TeamInspector を再度インストールする前に、TeamInspector インストール ディレクトリとファイルを手動で削除してください。
- TeamInspector を再インストールまたはアップグレードする場合、クライアント コンピュータから TeamInspector アプリケーションを起動する際に一般的なログオン エラーが発生する場合があります。このエラーが発生した場合、Web ブラウザの Cookie を削除してください。

ビルド

- 大規模な複数のプロジェクトのビルドを TeamInspector で実行している場合、OutOfMemory の問題が発生することがあります。この問題が発生した場合、OutOfMemory 例外が TeamInspector ログ ファイル (teamiInspector-master.log、または teaminspector-job.log) に記録されています。この問題が発生した場合、次の TeamInspector ラッパー ファイルで Java ヒープ サイズを増やしてください： master-wrapper.conf、job-wrapper.conf、web-wrapper.conf。
- 詳細については、オンライン ヘルプの「*Troubleshooting Build Failures*」を参照してください。

ドキュメント

製品のインターフェイスから TeamInspector オンライン ヘルプを最初に開いたとき、ヘルプ システムのすべてのトップレベルの見出しが展開された状態ではなく、折りたたまれた状態で目次が開きます。

このペインで目次を展開し、トップレベルのトピックを表示するには、TeamInspector ブックアイコンの隣にあるプラス (+) 記号をクリックします。さらにそのトピックを展開して各見出しのサブトピックのリストを表示することができます。

それ以降は、ページやダイアログ ボックスからヘルプ アイコンをクリックすると、表示してるページやダイアログ画面のコンテキストに応じたトピックがヘルプ システムで開かれます。

Micro Focus へのお問い合わせ

Micro Focus は、世界的規模のテクニカル サポートおよびコンサルティング サービスを提供します。すべての顧客のビジネスを成功に導くために、信頼できるサービスをタイムリーに提供するように、Micro Focus はワールドワイドのサポート体制を整えています。

保守およびサポート契約を結んだすべてのお客様、および製品を評価中のお客様は、カスタマー サポートを受けることができます。高度なトレーニングを積んだスタッフが、お客様の質問にできる限り迅速かつ専門的にお答えします。

<http://supportline.microfocus.com/assistedservices.asp> にアクセスするか、またはメールを supportline@microfocus.com に送信して、Micro Focus SupportLine と直接連絡できます。

また、<http://supportline.microfocus.com> の Micro Focus SupportLine では、最新のサポートに関するニュースや、さまざまなサポート情報を得ることができます。このサイトに初めてアクセスした場合は、ユーザー登録が必要な場合があります。

Micro Focus SupportLine が必要とする情報

Micro Focus SupportLine をご利用の場合は、可能な限り次の情報を提供ください。情報が多ければ多いほど、Micro Focus SupportLine はお客様に適切なサービスを提供できます。

- 問題の原因と思われるすべての製品の名前およびバージョン番号
- 使用しているコンピュータの製造元およびモデル
- システム情報 (オペレーティング システムの名前やバージョン、プロセッサやメモリの詳細など)
- 問題の詳細な説明 (問題の再現手順など)
- 発生したエラー メッセージ
- お客様のシリアル番号

これらの番号は、Micro Focus から受け取った 電子メールの件名および本文に記述されています。

Micro Focus SupportLine が必要とする追加情報

保護違反についてのレポート時には、ダンプ ファイル (.dmp) を要求される場合があります。ダンプ ファイルを生成するには、保護違反が発生したときに表示される [予期しないエラー] ダイアログ ボックスを使用します。Micro Focus SupportLine が要求しない限り、ダンプ ファイルの設定は Normal (推奨) のままにしておき、**ダンプ** をクリックしてダンプ ファイルの場所と名前を指定します。ダンプ ファイルが書き出されたら、Micro Focus SupportLine に電子メールで送信してください。

統合トレース機能 (CTF) によって作成されたログ ファイルを要求される場合もあります。CTF は、多くの Micro Focus ソフトウェア コンポーネントの操作の詳細を表す診断情報をすばやく簡単に生成可能にするトレース インフラストラクチャです。

デバッグ ファイルの作成

プログラムのコンパイル時に、Micro Focus SupportLine に連絡を取る必要のあるエラーに遭遇した場合は、問題の原因を特定するために、追加のデバッグ ファイル (および、ソースとデータ ファイル) をサポート担当者から要求される場合があります。その場合、その作成方法も合わせて連絡します。

ライセンス情報

この製品には、Indiana University Extreme Lab ([http:// www.extreme.indiana.edu/](http://www.extreme.indiana.edu/)) や Apache Software Foundation ([http:// www.apache.org/](http://www.apache.org/)) によって開発されたソフトウェアが含まれています。

索引

数字

64 ビット TeamInspector 8

A

APE コントロールのリンク/トレース 10

B

Borland Connect
新機能 12

C

Customer Care 37

H

HCO
エラー 37

J

Jenkins CI 7

L

LayoutDesignerAPE サンプル 10
list-labels 8
list-projects 8
list-views 9

M

Microsoft SQL Server 2012 のサポート 10
Microsoft Windows 8 のサポート 9-11
Microsoft Windows Server 2012 のサポート 10
move コマンド 6

P

PostgreSQL データベースのサポート 7

R

remove-project 9
remove-view 9

S

SCM API 12
StarFlow Extensions

新機能 10

StarTeam Command Line Tools
新機能 6, 8

StarTeam Cross-Platform Client
システム要件 13
新機能 7, 9

StarTeam Cross-Platform Client でアイテムを開く 8

StarTeam Datamart
システム要件 13
新機能 10

StarTeam Eclipse Client
システム要件 14

StarTeam Layout Designer
サポートされる新しいプロパティ 10
システム要件 15
新機能 10

StarTeam Notification Agent
64 ビット アプリケーション 11
新機能 11

StarTeam Quality Center Synchronizer
システム要件 17

StarTeam Server
Adobe Acrobat 19
JRE 19
Linux のシステム要件 21
Microsoft SQL Server Express を同じコンピュータで
実行する 20

Web ブラウザのサポート 19

新しいインストール機能 11, 12

ウィルス スキャン ソフト 19

サポートするオペレーティング システム 18
システム要件 17

新機能 7, 11

大容量メモリのサポート 21

データベース サーバー システムの要件 20

データベース サポート 18

データベースを異なるコンピュータで実行する 20

StarTeam Visual Studio Integration
システム要件 21

StarTeam Web Client
システム要件 22
新機能 7, 8

StarTeam Web Server
システム要件 22

StarTeam Workflow Designer
新しいプロパティ 11
新機能 11

StarTeam Workflow Extensions
システム要件 22

StarTeamMPX
システム要件 16

SupportLine 37

T

TeamInspector
システム要件 22
新機能 8
trace コマンド 6

U

Unicode 文字セット
StarTeam Server 7, 11, 12, 17–21

W

WebSync 37
Works Order 番号 37

か

カスタム レイアウト レンダリング 9

き

キーワードの履歴とログ 7
既知の問題
Datamart 26
SDK 29
StarTeam Cross-Platform Client 26
StarTeam Eclipse Client 27
StarTeam Quality Center Synchronizer 31
StarTeam Server 29
StarTeam Visual Studio Integration 32
StarTeam Web Client 33
StarTeam Web Server 34
StarTeamMPX 28
TeamInspector 35

く

クロスビュー処理アイテムのナビゲーション 10

け

検索 6

こ

コマンド ラインの既知の問題 25
コマンド ライン パラメータ 6
コンポーネント アクセスの構成 8

し

システム要件
StarTeam Cross-Platform Client 13
StarTeam Datamart 13
StarTeam Eclipse Client 14

StarTeam Layout Designer 15
StarTeam Quality Center Synchronizer 17
StarTeam Server 17
StarTeam Visual Studio Integration 21
StarTeam Web Client 22
StarTeam Web Server 22
StarTeam Workflow Extensions 22
StarTeamMPX 16
TeamInspector 22
シリアル番号 37
新機能
Borland Connect 12
StarFlow Extensions 10
StarTeam Command Line Tools 6, 8
StarTeam Cross-Platform Client 7, 9
StarTeam Datamart 10
StarTeam Layout Designer 10
StarTeam Notification Agent 11
StarTeam Server 7, 11
StarTeam Web Client 7, 8
StarTeam Workflow Designer 11
TeamInspector 8
すべてのコンポーネント 6

す

すべてのコンポーネント 6

せ

製品サポート 37

た

ダウンロード 37

て

デバッグ
エラー メッセージ 37
電子メールの宛先 7

と

ドキュメントの既知の問題 25

に

日時によるグループ化 7

ふ

ファイルのチェックイン/チェックアウト 8
ファイルの履歴ペイン 9
ファイル パフォーマンスの更新 9
プロジェクト固有のフィルタ 7

へ

変更の無効化 9
変更パッケージのリンク 9

め

メンテナンス タスク スケジューラ 11

ら

ライセンス情報 38
ラベル テーブルのナビゲーション 9

れ

連絡先情報 37